

## 論文

# 「天声人語」から見る時制と相

傅 建 良  
(関西学院大学大学院)

## 1. はじめに

英語の現在完了は「現在と関連する過去」であり (Leech 1971, 2004)、二つの時間的関係を表す複合時制である (Huddleston *et al.* 2002 : 240)。日本語においては完璧な対応形態がないので、現在完了の英文を和訳する場合には、様々な対訳が出てくる。日本語の「テイル」は「既然の結果が現存している」という中心的意味 (寺村 1984) を持ち、「現在事態」を共通の基盤とするアスペクト的意味のグループである(鷲尾・三原 1997:186)。この「過去」と言われる現在完了と「現在」と言われる「テイル」は一見正反対であるが、例文(1)と(2)を見ると、意外と共通点もあることが分かつてきた。

- (1) 重症急性呼吸器症候群といわれる新型肺炎だ。中国や香港を中心に、世界各地に患者が広がっている。

The new type of pneumonia, known as severe acute respiratory syndrome, or SARS, has sickened many people in China and Hong Kong and has spread around the world.

(「天声人語」2003年4月4日)<sup>1</sup>

- (2) 99年、米シアトルでの世界貿易機関（WTO）閣僚会議以来、この運動は激しさを増している。

The movement has escalated since the 1999 World Trade Organization Cabinet ministers' meeting in Seattle.

(「天声人語」2002年8月27日)<sup>2</sup>

(1)の「広がっている」と(2)の「増している」は、英語の現在完了に訳されている。この意外と思える共通点をきっかけとして、「天声人語」に用いられる英語の現在完了を中心にして、その意味記述と特色を考察した上で、次の二つの問題を解決しようとする。

一つ目は、英語の現在完了の“current relevance”が、文レベルで現在に関する時間副詞などの他に、どのように示されるのか。

二つ目は、日本語の「テイル」が英語の現在完了と対訳される時に、日英語の動詞はどのようなアスペクト性を持っているのか。

## 2. 研究手法

本研究では、2002年4月から2004年9月までの456篇の「天声人語」の原文とそれらの英訳が基本データとして用いられる。「天声人語」は「朝日新聞」朝刊一面のコラムであり、ベテランの新聞記者が担当している評価の高いコラムである。日々時代のありさまを鮮明

に映し出していて、よく読まれている。大学入試の題材として採用されることも多い。これらの原文は、日本人によって英訳され、英語ネイティブチェックを受けて、朝刊英字紙“International Herald Tribune”的“VOX POPULI, VOX DEI”コラムに載せられている<sup>3</sup>。

放送ニュース英語は既に藤井(2004:15-16)に指摘されたように、コラム記事と異なり、臨時ニュースや現場中継も可能なので、いつでも事件の展開について知らせることが出来る利点がある。藤井(2004)が取り上げたアメリカのMissouri大学ジャーナリズム学部が学生に配布しているDesk Bookには、下記のように指導している。

- (3) … If an event occurs shortly before airtime, say “just a few minutes ago.” If an event occurs in the morning, it’s best to say “this morning” in a morning or noon newscast rather than “today”. But by the evening news programs, a morning event should be referred to as something which happened “today”; by evening, to say something happened “this morning” or “early today” dates that story old.<sup>4</sup>

(3) のように「即時性」を重視するアプローチの他に、若干古くなっているケースにおいて時をぼかす手段の一つが現在完了時制の使用なのである(藤井 2004:22)。本研究に用いられるコラム記事である「天声人語」は、「即時性」において、放送ニュース英語と比べるものにならない。放送ニュース英語より「古い」ニュースを報道したり、議論したりする「天声人語」では、コラム記事の「最新性」が英語の現在完了と日本語の「テイル」の使用にどう影響するかについて、下記の二段階にわたって、上記の仮説を検証していこうと思う。

## 2.1 対応する日本語から見る英語の現在完了

2003年4月から6月までの「天声人語」76篇の記事から、英語の現在完了の例文を抽出し、どんな日本語用法が英語の現在完了に訳されるのかという点を解明したい。これらの日本語の表現から、英語の現在完了の意味も再認識することができる。またこれらの日本語表現を動詞の活用形によって分類して、出現の頻度順によって英語の現在完了のプロトタイプ的な意味に導いてみよう。

## 2.2 「テイル」を現在完了に訳す

2002年4月から2004年9月までの456篇の「天声人語」の原文とそれらの英訳において、「テイル」が現在完了に対訳された全ての例文はこの節のデータとして用いられる。例文から動詞項のペアを抽出し、中国語における動詞の周期性理論によって、それぞれのアスペクト性を分析する。特に「テイル」と現在完了の対訳が成立するのに不可欠な動詞項のアスペクト性を掘り出すのが、この節の主な目的である。

## 2.3 動詞の分析理論

Vendler(1967)、Verkuyl(1993)、Quirk *et al.*(1985)、金田一(1950)、奥田(1985)、金水・工藤・沼田(2000)が日英動詞(事象)をそれぞれの論点から分析してきて、動詞のアスペクト性の研究進展に貢献したが、Vendlerたちが用いた分類基準は、次の三つのパラメーターに含まれるとも言えるだろう。

- ① 動作性：状態・動態、アスペクト性の有無
- ② 持続性：動作が行う過程を持つかどうか

③ 終結性：動作が終了した時点が存在しているかどうか

上記のような日英語の動詞分類基準の他に、中国語における動詞を分析している呉(2002)の動詞の周期性を紹介しておきたい。呉(2002:34)は、周期とは、一定の時間内にある「現象」が繰り返し出現することであると定義している。この「現象」を具体的に言うと、動詞項によって記述された事象の各局面である。呉(2002:34-35)の動詞分類は次のようになる。

① 零周期動詞：恒常性を持ち、時間が経過しても局面上の変化がない。

(4) 有(ある)、是(である)、属す(所属する)<sup>5</sup>

② 単周期動詞：複数の局面が存在し、ある時点で事象が終結状態になり、その後局面の変化がなくなる。事象の周期が一つしかない。

(5) 破(破れる)、死(死ぬ)

③ 多周期動詞：時間の変化とともに、いくつかの局面の連続変化によって成り立った最小周期が繰り返して出現する。

(6) 吃(食べる)、看(見る)

日英語の動詞研究について、次のような問題点を指摘し、呉(2002)の周期性理論の利点を論じる。

一つ目は「瞬間性」の定義である。金田一(1950)、金水・工藤・沼田(2000)などは、「瞬間性」を動詞分類の一つのスタンダードとしているが、「瞬間性」を定義することは主観的でもあり、曖昧でもある。また、尺度を表すフレーズと共にすることによって、「瞬間動詞」と言われる動詞は、持続の意味を表すことも出来る。この用法を3節で展開していきたい。呉(2002)によれば、「死ぬ」、「爆発する」などの動作が実現することが一つの周期として設定されるので、瞬間的な「爆発」でも、少々時間がかかった大爆発でも、事象の局面から、一つの周期にして、動詞のアスペクト性をより明確にできる。

二つ目は「達成動詞」(accomplishment)である。Vendler(1967)によると、drawは活動動詞であるが、draw a circleは達成動詞になる。同じ動詞が二つの分類に所属するのが理解しにくいのである。また、Huddleston *et al.*(2002)も指摘しているように、「達成動詞」は語彙レベルの動詞ではなく、ほぼ動詞フレーズである。実際にも a circleのような目的語のみならず、主語、補語などのスケールを表す構成もこのような現象を起こしている。周期理論は、動詞と共に目的語及び主語などに配慮し、事象の局面の視点から動詞のアスペクト性を見ているので、動詞フレーズである「達成動詞」を分類する必要がなくなる。

三つ目は動詞分類の多基準性である。Vendler(1967), Quirk *et al.*(1985), 金田一(1950)、奥田(1985)、金水・工藤・沼田(2000)は、二つ以上の基準によって、動詞を分類しているが、呉(2002)では、「周期」という单一の軸で動詞を分析することができるのが利点だろうと考える。

呉(2002)の周期性理論は、動詞の語彙レベルを超えて、より客観的に動作の実行する時間を分析し、アスペクトに関する主語、目的語、副詞などに配慮した上で、一つの基準によって動詞を分析するのが利点である。周期性による動詞分類も欠点があり、同じ動詞が一つ以上の動詞類に当てはまることがある。本研究では、Vendler(1967)などの動詞研究を出発点として、呉の周期理論を借りて、「零周期動詞」、「単周期動詞」、「多周期動詞」の分類をやめて、動詞の「零周期性」、「単周期性」、「多周期性」によって、動詞のアスペクト性を考察していきたい。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 結果（1）一対応する日本語から見る英語の現在完了

2003年3月から6月までの76篇の記事から、英語の現在完了の59例を抽出し、分析している。英語の現在完了と対応する日本語の言語形式を次のように九つのカテゴリに分けている。各カテゴリに属している例文の割合は図1で示されている。

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ① 「タ」          | ② 「テイル」             |
| ③ 「テキタ／テイク」    | ④ 「スル」              |
| ⑤ 「ティタ」        | ⑥ 「シタコト・ケイケンガアル・ナイ」 |
| ⑦ 「～ツヅケル・ツツアル」 | ⑧ 「テシマウ」            |
| ⑨ 「ショウトシテイル」   |                     |

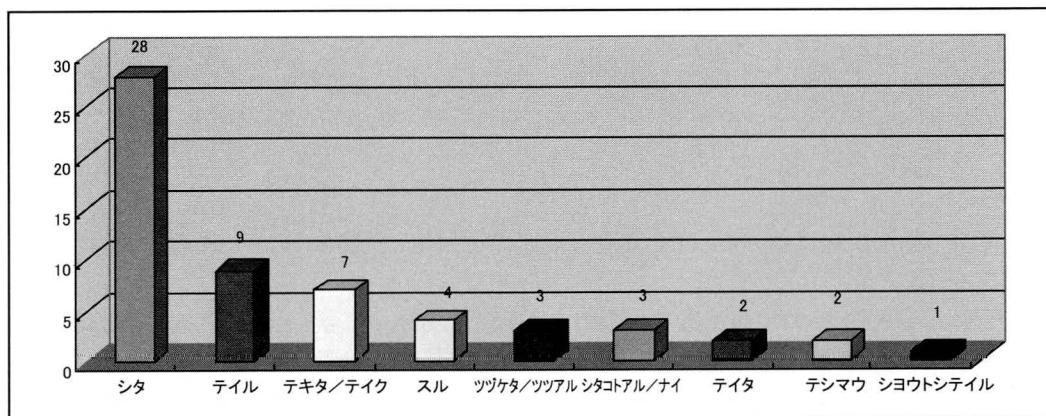


図1. 英語の現在完了と対応する日本語

##### 3.1.1 現在完了

Leech (1971, 2004), McCawley (1973), Quirk *et al.* (1985), Biber *et al.* (1999), Huddleston *et al.* (2002)などの言語学者はそれぞれの視点から現在完了の含意を解釈しているが、現在完了が完了、結果、継続及び経験を含意している点ではほぼ共通の認識をしている。ただし現在完了用法の分類方法が異なっている。本研究の立場を紹介する前に、工藤 (1995) のパーカク相の定義を借りたい。

- ① 発話時点 (S T)、出来事時点 (E T) とは異なる設定時点 (R T) が常にあること。
- ② 設定時点に対して出来事時点が先行することが表されていて、テンス的要素としての「先行性」を含んでいること。
- ③ しかし、単なる「先行性」ではなく、先行して起こった運動が設定時点との結びつき = 関連性をもつていると捉えられていること。つまり、運動事態の「完成性」とともに、その運動が実現した後の効力も複合的に捉えるというアスペクト的要素を持っていること。

(工藤 1995 : 99)

このように事態の時間構造に基づいた定義を参考にして、「完了」と「結果」用法がかなり類似しているので、一つのカテゴリに含み、「パーカク相」と呼ぶことにし、本研究では現在完了用法を次のように分類する。

- ① パーフェクト相（現在）
- ② 繼続
- ③ 経験

### 3.1.2 「タ」形と現在完了

英語の現在完了に訳される上記の九つの日本語の言語形式のうち、「タ」形が一番多い（59例のなかに28例）ことに注目したい。日本語の「タ」形の意味をまとめることができ、現在完了の意味を理解するには最も役に立つ。寺村（1984：119）は、日本語の一次的アスペクトである「シタ」（既然）が、単なる過去を表しているのか、「現在における既然」を表しているのかという二通りの解釈ができると強調している。「単なる過去」は現在完了の本質であり、「現在における既然」は英語の現在完了の「結果・完了」用法に非常に近いと言ってよいのではないだろうか。そういうっても全ての「タ」形は現在完了に訳するのが適切であるわけではない。

- (7) 昨年末、文具などの通信会社「アスクル」に、企業戦略論の大家の名を冠したポーター賞が贈られた。  
Askul, a mail-order company dealing in stationary and office supplies, was awarded the Porter Prize in December by ….  
(「天声人語」2003年2月6日)
- (8) 95年春は「一に忍耐、二に我慢、三四がなくて五に辛抱」。その夏に、山口さんがなくなった。  
In spring 1995, Yamaguchi wrote, “Persevere, persevere, persevere.” He died that summer.  
(「天声人語」2005年4月1日)
- (9) 新球団・楽天イーグルスの試合をきのう、本拠地の仙台で見た。  
I recently watched a Tohoku Rakuten Golden Eagles game at the new team’s home stadium in Sendai.  
(「天声人語」2005年4月2日)

(7)、(8)、(9)のように「タ形+定過去副詞」の日本語を英訳するには、過去形をとるのが適切な選択であるに違いない。やはり英語の現在完了に訳される「タ」形は「タ形+現在性の $\alpha$ 」でなければならない。この $\alpha$ の現在性を解明しようとするなら下記のように論述することが出来る。

「現在における既然」である「タ形+ $\alpha$ 」の $\alpha$ は文レベルで見れば、主に時間に関与する副詞である。松井（2001）は、日本人英語学習者のために、日本語では過去に起点を置きながら現在にも関わることを表す副詞「もう」、「既に」、「今までに」、「ずっと」、「これまでに一度も」などを取り上げて、英語の現在完了に訳させるドリルを紹介している。これらの副詞は「パーフェクト相」、「継続」あるいは「経験」と自ずと繋がることができる。

しかしながら今回のデータからはこのような副詞の役割があまり見られない。28の例文では「40年後の今」、「いつも」、「いつの間にか」、「今こそ」など四つの例文だけは副詞の力を借りて、「現在」と結びつくことができ、英語の現在完了に訳されることになる。かわりに、文単位内では、上記のように現在性と繋がる糸が全くないままで、現在完了に訳

されることが圧倒的に多かった。つまり、「夕形+ $\alpha$ 」の $\alpha$ は文レベルの副詞以外に、代行できるものがあると言えるだろう。いったいこれはどういうことを次の例文から検証することにする。

- (10) 「衝撃と恐怖」作戦の失敗を認めたブッシュ政権が「愛と寛容」作戦に切り替えた。  
Having admitted the failure of the “shock and awe” strategy, the Bush administration has renamed it “love and tolerance.”

(「天声人語」2003年4月1日)

- (11) その峰の一つに「六本木ヒルズ」が開業した。  
A newly developed trendy area by the name of Roppongi Hills has opened on one of Tokyo's peaks.
- (「天声人語」2003年4月30日)
- (12) 六本木のヒルズも視平線をかなり引き上げた。  
Roppongi Hills has considerably raised the shiheisen in the area.

(同上)

例文(10)をパーカクト相として成立させるために、工藤(1995)は先行性、完成性と効力三つの要素が必要であり、そのことを図示すれば次のようになるとしている。

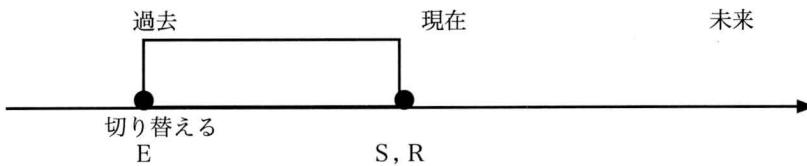


図2. パーカクト相の時間構造

図2に示されるように、(10)の日本語例文をパーカクト相と理解させるために、「切り替える」という動作は過去の出来事であること、そして「切り替える」という動作は既に完了したという二つの条件の他に、参照時を「発話現在」に設定しなければならない。つまり「切り替えた」結果—「愛と寛容」作戦が「発話現在」も真である条件が必須である。コラム記事の最新性という潜在的効力を明らかにすると、2003年4月1日の発話時に「愛と寛容」作戦であることは言うまでもないので、(10)の日本語例文をパーカクト相と理解し、現在完了に訳されることになる。

(11)と(12)は2003年4月30日の新聞に載せた例文であり、文レベルで現在を表す副詞がなく、単なる過去のことであるかと思われるが、両者とも英語の現在完了に訳されている。この二つの例文に関する「最新性」はどのように働いているかを調べて見た。ほぼ一週間前の2003年4月25日の「朝日新聞」朝刊の14版に載った「六本木きょう開業」という記事が二つの例文の「最新性」を裏ついているのではないかと考える。コラム記事は、(3)に示される放送ニュース英語の「即時性」ほど「最新性」に注目していないが、時をぼかす手段として、現在完了を用いるという特徴が見られる。このような例文は他にも数多く見られる。

しかしながら、このコラム記事の潜在的「最新性」は非常に曖昧でもある。読み手にとっての最新性は、McCawley(1973)の英語の現在完了のhot news用法である。読み手は

ニュースの最新性を全て同じように受け入れるわけではない。新情報として読み取る読者もいるし、旧情報として受け取る読者もいるはずである。

(13) Kennedy has been assassinated.

(McCawley 1973 : 268)

(13) は McCawley (1973 : 268) が取り上げた極端な例ではある。J. F. Kennedy は 1963 年 11 月 22 日に暗殺されたので、非文法的であると思われるが、1960 年以来ずっと島流しにされて、「発話現在」救出されたばかりの人に対して、Kennedy has been assassinated. というべきだろう<sup>6</sup>。

また書き手から見ると、この「最新性」は客観的ではなく、主観的である。町田 (2002) に指摘されたように、現在完了形によって表される事態はあくまでも過去の出来事なので、現在の状況との関連性という特徴は、事態の成立する時間区間がいつなのかという客観的な事実に基づくものではなく、話者の主觀が介在する余地が大きくなる。このことから、たとえ現在との時間的な隔たりが大きくても、現在の状況との関連性があると話し手が判断するならば、(14) のように現在完了を用いることが可能になるに違いない。

(14) Newton has discovered the law of gravity.

(町田 2002 : 14)

さらに、柏野 (1999 : 166) では、「談話のトピックの現存」という観点が踏まえられている。一般的に現在完了の主語は人であっても物事であっても現存でないといけないが、(15) では best plays が話題のトピックであるので、容認可能な文となりうる。

(15) Shakespeare has written most of the best plays we know.

(柏野 1999 : 166)

このように、書き手、読み手あるいは話題のトピックの立場から、ある出来事の最新性を出来るだけ掘り起こして、現在完了によっていきいきと読者に伝えるという特徴がよく見られる。つまり、現在完了の「current relevance」は、文単位内のアスペクト性を持つ構成によって証明される他に、この範囲を超えるコラム記事の潜在的「最新性」と繋がることも同じように示される。

### 3.2 結果(2) — 「テイル」を現在完了に訳す

18 カ月の 456 篇の「天声人語」とそれらの英訳から、83 例の「テイル」は、現在完了と対訳されている。これらの対訳では、次のような日本語の動詞が現れた。

なる(7回)、出る(3回)、続く(3回)、増す(3回)、広がる(2回)、広げる(2回)、落ちる(2回)、失う(2回)、できる(2回)、作る(2回)、継がれる(2回)、残る(2回)、上がる(2回)、戻る(2回)、言われる(2回)、起きる(2回)、付き纏う(2回)、記帳される、通用する、生きる、強いられる、宣言する、払う、重なる、築く、あおる、露見する、上告する、自白する、進む、激減する、始まる、送る、表現する、超えられる、

傷つける、再流行する、一貫する、立ち至る、知る、共用する、分裂する、注目する、申し合わせる、置かれる、集める、横行する、続出する、助ける、消滅するなど<sup>7</sup>

上述の対訳が、寺村（1984）の「テイル」の五用法と現在完了の三用法に、どのように当てはまるのかを明らかにしたい。

### 3.2.1 「テイル」のパーフェクト相用法

英語の現在完了の「パーフェクト相」用法は日本語の「テイル」の「ある過去（以前）の出来事が終わって、その結果が今ある状態として残っていることを表す場合」の用法と極めて似ている。この場合、日本語の動詞（項）の特徴を先ず見ていくようと思う。寺村（1984：126）ではこの用法のもとに、次のような動詞を取り上げている。

- (16) 筑波では、繭玉行事が始まっている。  
あそこに百円玉が落ちている。

「死ぬ」、「始まる」、「落ちる」などの動詞は、日英語動詞分類基準をかけると、次の特徴を持っていることが分かる。

- ① 全ては動的である。
- ② 全ては継続性を持たない動詞である。
- ③ 全ては終結性を持つ動詞である。

今回のデータからこのような性質を持った動詞項も現れた。

- (17) 単に日本語の能力が落ちているのか…。

Does it mean students' knowledge of Japanese has deteriorated?

（「天声人語」2003年5月14日）

- (18) …もう十分に信を失っているのに、気付かないのか。これも妙だ。

Doesn't he realize he has already lost the confidence of voter? This is another odd thing.

（「天声人語」2003年5月23日）

- (19) 彼をめぐる書が様々あるのか、1冊の絵本が心に残っている。

Of the many books written about him, the one that has impressed me most is a picture book titled "Francesco."

（「天声人語」2003年3月3日）

今回のデータでは、出現頻度が一番高い日本語の「なる」動詞項と英訳動詞項を次のように取り上げて分析してみたい。

- (20) 「なる」とその対訳動詞項

生き物になっている : have become a creature

難しくなっている : has become an increasing difficult task

かび臭くなっている : have grown musty

廃墟になっている : have fallen into ruins

断片に反応しやすくなっている：have become fragmentary

当たり前になっている：have come to be viewed as tiny perk for

- (21) デリケートな文化を持ち、疲れを知らぬ勤労の町々が廃墟となっている。

Towns with exquisite cultures and tireless, hardworking citizens have fallen into ruins.

(「天声人語」2003年1月16日)

- (22) 「私は今、宇宙全体を動かすことのできる生き物になっていますが、…。」

“I have become a creature with the capacity to move the whole universe.”

(「天声人語」2003年4月25日)

- (23) 雛を狙うカラスからの防衛も難しくなっている。

In addition, defending chicks from crow has become an increasing difficult task.

(「天声人語」2003年5月10日)

(21) を例とし、「廃墟となっている」とその英訳「have fallen into ruins」の時間構造を図3のように示して見よう。時間構造から見ると、両者とも現在パーフェクト相の時間構造であり、完全に一致していることが分かる。(22) と(23) もこのように分析することができる。動作の結果が発話現在まで持続するのが動詞「なる」の一つの特性である。

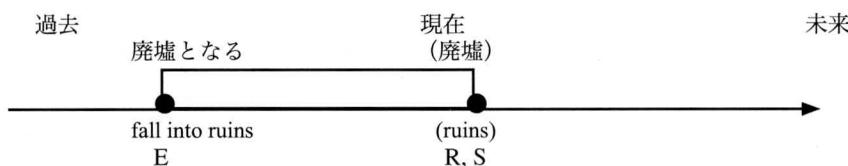


図3. 例文(21)の時間構造

### 3.2.2 「テイル」の持続用法

英語の「die」などのように継続性を持たない動詞が、進行アスペクト辞「-ing」をとっても、持続の意味を表すことができない。これらの動詞の持続用法を分析するには、日英語動詞分類基準のみでは解決できないのである。

- (24) WASHINGTON (Kyodo) The U.S. Food and Drug Administration said Thursday that 12 pediatric patients in Japan who took the flu drug Tamiflu have died since its approval in 2000.<sup>8</sup>

(<http://www.japantimes.co.jp/cgi-bin/getarticle.pl5?nn20051119a2.htm>)

この例文は、単に上述のように動詞の「動作性」、「継続性」と「終結性」で分析するなら、have died がパーフェクト相の意味解釈になる。しかしながら、パーフェクト相であるなら、「have been dead」をとるのが普通である。(24) では、「have died」をとっているので、パーフェクト相にはならないのである。since 構文の特色を考えると、「have died」は持続用法しかとれない。

周期性理論はこのような継続性を持たない動詞の持続用法を解明するには有効ではないかと考えている。この例文が成立する前提は、12人の患者が一つの事故で死亡したわけ

ではないことである。dieは単周期であり、生きている状態から一回だけ変化が起こり、その後は変化なしで息のない状態になるが、(24)では、患者12人のことであり、die動詞項は単周期性を持たなくなり、多周期性を持つことになる。一人の患者の死ぬこと<sup>9</sup>が最小周期であり、(24)では最大12回繰り返し継続していることを表すことができる。実際にタミフルの死者を調べたところ、「毎日新聞」2005年11月12日の記事によると、2004年2月岐阜県の男子高校生一人の死亡と2005年2月愛知県の男子中学生一人の死亡という二つのハプニングがある。12人の患者が一つの事故で死亡したわけではないことは証明された。この現実も上記の言語学的な分析と一致して、“have died”はパーカク相の意味ではなく、継続の意味であるという結論に至る。

「テイル」の持続用法はこれだけではない。金水・工藤・沼田(2000:36)が指摘したように、「絞める」のような「継続」と「結果」を両方表せる動詞は、付けられる副詞や文脈などによって文意が決められるという持続用法もある。

- (25) 今、幅の広い布のような物で絞めている。

(金水・工藤・沼田 2000:36)

- (26) 犯人が殺害に及んだとき、幅の広い布のような物で絞めている。

(同上)

(25)では、「今」という時間副詞の出現することによって、動作が「継続」として捉えられることになるが、(26)では、「犯人が殺害に及んだとき」という時間従属節と共に起すると、「結果」を表している解釈になる。このように時間副詞もしくは時間従属節と共に起すことによって、「テイル」は、「継続」なのか、「結果」なのかを決める仕組みの他に、文脈も同じような役割を果すことができる。(27)の「築いている」も「継続」と「結果」が表せる動詞であり、文单位以上の〔 〕内の文脈によって、金日成の時代から、「築く」という動作が始まり、現在の金正日時代も「築く」という動作が続いているので、「結果」と解釈が出来なく、「持続」として捉えられることになる。

- (27) [拉致事件で被害者がさせられたという「現実体験」「現実研究」が気になる。例えば抗日戦の歴史をたどり、故金日成主席や金正日総書記の「偉大さ」を教え込むのだろう。] それほど外の世界とは違う「現実」を築いているのだろう。

I think North Korea has created a “reality” that is quite divorced from what is accepted as reality in the outside world.

(「天声人語」2002年10月8日)

#### 4. まとめ

英語の現在完了は、複数の意味合いを表現できる複雑なアスペクト形式である(Huddleston *et al.* 2002)。本稿では、対訳言語形式からその意味をもう一度考察した。英語の現在完了は過去時制の一種であり、過去のプロトタイプな意味を持ち、パーカク相、経験及び継続という三つの解釈が出来る。

「最新性」は新聞記事の命であり、コラム記事もこのような鮮明な特徴を持っている。この統語範疇を超える「現在性」を顕著化して、一見単なる過去の出来事と見られる事態も、生き生きと読者に報道するために、日本語では「テイル」を、英語では現在完了を汎用する

傾向が見られる。このように、現在完了の「current relevance」は、従来の文単位内のアスペクト性を持つ構成の他に、コラム記事の潜在的「最新性」によって証明される。

「テイル」が現在完了と対訳される時、動詞のアスペクト性が重要な役割を果している。動詞を分析するために、Vendler (1967) などの日英語の動詞分析の基準以外に、中国語における動詞の周期性理論も日英語動詞の分析に試みた。動的であり、継続性を持たない、終結性を持つ動詞は、パーフェクト相の意味合いとして、英語の現在完了で訳すことが多いようである。一方、継続性を持たない動詞の持続用法を解釈するには、周期性理論が有効であることも証明された。「継続」「結果」を両方とも示せる動詞も、統語範疇を越える情報によって、「結果」の意味をとるか、「継続」の意味をとるかが決められるようになる。

本研究では、「天声人語」の原文が忠実に完璧な英語に訳されていることを大前提にしているが、実際に日本語とその訳の意味ずれや英語らしくない英訳などが存在する可能性もあると考えられる。また全ての分析と結論は「天声人語」のデータだけに基づいたものであり、この範囲以上に適用できるかどうかは今後の課題としたい。

## 注

- 1 「天声人語」の全てのデータは、日本語が原文であり、英語が訳である。
- 2 この日付は日本語原文が載った「朝日新聞」朝刊の日付である。
- 3 朝日新聞社広報部からのメールによると、「英語版については、まず日本人の記者が翻訳し、ネイティブの整理記者がチェックしております」。(2005年7月7日 15:32:48)
- 4 藤井 (2004) で引用された Desk Book の内容をそのまま引用する。
- 5 (4), (5) と (6) は中国語の例であり、括弧にあるのは日本語訳である。
- 6 例 (13) にはもう一つの解釈がある。「ケネディが暗殺されて久しいが、未だに彼に匹敵する政治家が出ていないのが残念だ」という話し手(書き手)の気持ちを表している。現在完了における話し手(書き手)の意識及び感情を、熊谷隆司 (2006) が「話し手の心の位置 (“point of mind”)」と呼ぶ。本研究では、この点について詳しく展開しない。
- 7 出現回数が記載されていない場合、1回であることを示す。
- 8 The Japan Times Online からの例文である。
- 9 「一人以上」も当然可能である。

## 参考文献

- 荒木一雄・安井稔 (編) 1992. 『現代英文法辞典』 東京：三省堂.
- 藤井章雄 2004. 『放送ニュース英語の体系』 東京：早稲田大学出版部.
- Huddleston, R. et al. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 柏野健次 1999. 『テンスとアスペクトの語法』 東京：開拓社.
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子 2000. 『時・否定と取り立て』 東京：岩波書店.
- 金田一春彦 1950. 「国語動詞の一分類」『言語研究』第 15 号、48 - 63.
- 金田一春彦 1976. 『日本語動詞のアスペクト』 東京：むぎ書房.
- 工藤真由美 1982. 「シティル形式の意味記述」『武蔵大学人文学会雑誌』13(4)、51 - 88.
- 工藤真由美 1995. 『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現』 東京：ひつじ書房.
- Leech, G. N. 1971, 2004. *Meaning and the English Verb*. London: Longman.
- 町田健 2002. 「現在完了は時制ではない？」『英語教育』51(7)、12 - 15.
- 松井琢実 2001. 「現在完了形の導入」『英語教育』49(12)、14 - 16.
- McCawley, J. D. 1973. *Grammar and Meaning: Papers on Syntactic and Semantic Topics*. Tokyo: Taishukan Publishing Company.

- 大橋一人・三浦弘善 2002. 「認知論的視点から見た語彙的アスペクトと文法的アスペクト—認知的現在への位置付けとしての現在進行形と現在完了形」『関東学院大学文学部紀要』95、91 - 125.
- Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- ライヘンバッック・H(著)・石本新(訳) 1982. 『記号論理学の原理』東京: 大修館書店.
- Reichenbach, H. 1947. *Elements of Symbolic Logic*. New York: Free Press.
- 澤田治美 1992. 「アスペクトから見た時間副詞類の意味と文法」(上 / 下)、『英語青年』138 (1, 2)、14 - 16、63 - 65.
- 寺村秀夫 1984. 『日本語のシンタクスと意味II』東京: くろしお出版.
- Vendler, Z. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.
- 呉凌非 2002. 「動詞的最大周期和最小周期及其应用」『現代中国語研究』4、34 - 39.
- 吉川千鶴子 1995. 『日英比較動詞の文法: 発想の違いから見た日本語と英語の構造』東京: くろしお出版.
- 鷲尾龍一・三原健一 1997. 『ヴォイスとアスペクト』東京: 研究社.

### 用例出典・資料・辞書

朝日新聞

International Herald Tribune Online (<http://www.asahi.com/english/>)

毎日新聞

『天声人語・2002年夏』東京: 原書房

『天声人語・2002年秋』東京: 原書房

『天声人語・2002年冬』東京: 原書房

『天声人語・2003年春』東京: 原書房

『天声人語・2003年夏』東京: 原書房

『天声人語・2004年秋』東京: 原書房

『天声人語・2005年夏』東京: 原書房

The Japan Times Online (<http://www.japantimes.co.jp/>)